

I. 会社概要

1. 会社の名称	株式会社 中田製作所
2. 本社所在地	大阪府八尾市上尾町5丁目1-15
3. 電話番号	072-996-8621
4. URL	http://www.nakata-ss.co.jp
5. 設立年月日	昭和57年3月21日
6. 資本金	1,000万円
7. 上場の有無(店頭/2部)	無し
8. 業種・業態	アルミ精密部品製造業・超微細加工の技術開発
9. 代表者名(年齢)	中田 寛(33歳)
10. 情報戦略責任者名(年齢、役職)	同上
11. 直近の売上高(百万円、年)	443百万円(2006/3)
その1年前の売上高(百万円)	449百万円(2005/3)
その2年前の売上高(百万円)	388百万円(2004/3)
12. 直近の経常利益額(百万円、年)	33百万円
その1年前の経常利益額(百万円)	13百万円
その2年前の経常利益額(百万円)	49百万円
13. 現在の従業員数(うち社員数、年)	25人(21人)
その1年前の従業員数(うち社員数)	23人(19人)
その2年前の従業員数(うち社員数)	20人(18人)
14. IT部門の有無(名称)	無し
15. IT部門の責任者名(年齢、役職)	中田 寛(33歳 代表取締役)
16. IT部門の人数(うち社員数)	3名(社長含む)
17. 直近のIT関連の年間費用(人件費も含む、百万円、年)	22百万円
その1年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	18百万円
その2年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	20百万円

平成18年度IT経営百選応募記入シート(2/2)

株式会社 中田製作所

18. 事業・商品・サービス内容	<p>アルミ素材に特化して、半導体製造装置・液晶製造装置・医療医薬機器・産業用ロボット・航空機器・自動車など多業種に渡って少量で精密部品を製造しています。当社の技術の代表例としては、極微小径穴加工技術(φ5μ～φ30μ)・微細溝加工技術(φ100μ～)・鏡面加工技術(Ra0.02～)・歪み抑制加工技術(ミクロンレベル)などがあります。各種部品製造には、設計開発段階からお客様のご要望やご相談に対応させて頂いております。</p>
19. ビジネスの特徴	
① 強み	<p>①技術(匠の技)を次世代の若い従業員に伝承する仕組みをITを活用して実現し、人材の高度化育成に特に注力しているため、徹底した納期管理と高品質で低コストな製品を提供できる。 ②営業技術係員は現場知識豊富なため、お客様の設計開発段階から提案営業ができる。 ③若い社員が思い切ったリーダーシップを発揮できる社風であるため、新しい柔軟な発想ができる。</p>
② 付加価値	<p>①当社は納期どおりに製品をご提供するので、ユーザー様が予定どおりに精度が高く、傷の無い部品を使用でき、組立て工程時間の短縮に大きな貢献ができる。 ②若い技術者4名が新技術開発チームとして通常業務とは独立して編成しているため、技術力に加えて企画提案力を備えています。 ③幅広い業種のお客様の開発に携わる機会に恵まれた事と、アルミ材質の特徴を知りつくした技術(ノウハウ)を提供できる。</p>
③ こだわり	<p>①アルミ素材を専門に製造している。 ②「守る納期と作った製品が次の営業を約束する」という品質方針を全社で徹底。 ③高い技術レベルを求められる各業界のトップクラスのユーザー様との取引を重視している。 ④「騙すより騙されるほうが良い」という真面目さや正直さの社員教育を徹底している。 ⑤1ロット500個以上の注文は引き受けない。(通常1～20個) ⑥技術と品質を優先するお客様を大切にし、基本的に見積もりは行わない。</p>
④ 独自性	<p>①相見積りをしないこと。 ②アルミ素材と多品種少量生産に特化していること。 ③社員全員でレベルアップ研修会や5S活動を隔週で行っていること。 ④インターネット営業の為のHPや社内の図面管理システムなどを全て自社製作して積極的に取り組んでいること。(エミダスホームページ大賞準グランプリ受賞、経済産業省の全国IT経営百選最優秀賞受賞) ⑤技術レベルの高い技術者が多いこと。(大阪府では史上初となる厚生労働省の高度熟練技能者認定2名、大阪府のなにわの名工認定者1名、八尾ものづくり達人受賞2名など多数)</p>

Ⅱ. 自己評価表1/2(ビジネス戦略・経営改革の視点)

会社名 株式会社 中田製作所

1 ビジネス戦略・経営改革の視点	評価を行なうに当たっての具体的事実
①業績の好調さ	<ul style="list-style-type: none"> ①新規顧客が毎年30社以上増加している ②新規開発案件が毎年5件以上増加している ③3年連続公共機関からの補助金を受託し、特許申請案件を含めた技術開発を実現している ④開発部門の仕事が増えているため、現在やるべき仕事と将来に向けた仕事との受注形態がバランスよく取れている。
②ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> ①顧客との信頼を基に相見積りの無い取引関係があるため、ビジネススピードが速い分、開発から生産への移行がスムーズで開発生産一貫体制が取れる。 ②図面管理・文書管理システムの構築による間接業務の効率化を図り、人員の増加無く生産性の向上を実現している ③アルミ専門と多品種少量生産に特化し、ブランディング戦略を実践している
③経営の自立化	<ul style="list-style-type: none"> ①最大手でも20%以内の依存率で多業種に渡って継続的に取引している顧客が180社以上になる ②インターネット受注システムの確立で新規顧客が毎月3～5社増えている ③企画提案型ビジネスに注力しているため、従来のお客様との安定的な取引を継続頂いている
④経営のオープン化	<ul style="list-style-type: none"> ①毎週朝礼で損益分岐点状況を社内で発表、月次で損益分岐点結果を公開する ②毎週の生産販売会議で生産の進捗状況や顧客情報の共有化を図り、コミュニケーションを深めているので、顧客に応じた肌理の細かい対応ができる ③当社の顧客の上位5社様には3ヶ月毎に社長自らが当社の受注状況や受注見込みを説明させて頂き、受注量の山谷をできるだけ安定した状態にしている
⑤満足度経営	<ul style="list-style-type: none"> ①ISOに則って社長が顧客満足度調査でお客様からご意見ご要望を頂いているが、常にA評価を受けている ②小学生に授業をしたり、工業高校への技術指導(実際に行う授業)や講演活動(モノづくりの素晴らしさを教える)などの社会貢献を積極的に行う ③社員が自己申請による記念日休暇を有給休暇とは別に1日取得できる ④教育訓練(国家資格取得奨励など)などの積極的な支援を行い、国家試験合格者には、資格給として取得した日から手当が増える ⑤毎年創立記念行事での表彰制度や、改善提案活動件数、5S活動など随時行う表彰制度が多数あり、モチベーションのアップになっている

Ⅱ. 自己評価表2/2(IT高度活用の視点)

会社名 株式会社 中田製作所

2 IT高度活用の視点	評価を行なうに当たっての具体的事実
①コミュニケーション	<p>①CADデータのやり取りや必要に応じたEDIシステムの活用を行うことで顧客との情報共有を積極的に展開している</p> <p>②PCは社内に12台あり、積極的にIT活用を推進しているが、一方で社内間での連絡事項については、メールでの連絡よりも直接コミュニケーションを取るように推進している(会社規模が大きくないからこそ＝大企業病にならない事)</p> <p>③自社製の図面管理システムを使って技術技能の共有化を図り、若手技術者と熟練技術者との円滑なコミュニケーションを展開している</p> <p>④ISOの文書管理を自社製の文書管理システムで行っているの、更新作業や情報共有化が容易にできる</p> <p>⑤本社と営業担当者との連絡の方法は、必要に応じて携帯メールやノート型PCを使用して行う。</p>
②営業・マーケティングの改革・新商品や新サービス開発への活用	<p>①2000年よりHPを自社製作インターネット受注を確立しているため、毎月3～5件の新規顧客を獲得している</p> <p>②顧客情報をデータベース化しているので、顧客毎の業種の特徴分析などを容易に行えマーケティングに活用して新規顧客へタイミングよく営業展開できる</p> <p>③世の中に出る前の開発案件の問合せ内容が多いため、新たに開発した技術が多く蓄積されてきた(摩擦攪拌接合に関する特許申請済み1件及び鏡面加工技術に関する特許申請考案中1件など多数)ことが、当社の営業ツール(武器)になった</p>
③プロセスの高度化・連携	<p>①各種の情報共有化でペーパーレス化や取引の迅速化を図ることができる</p> <p>②ITを活用することによって社内の工程プロセスの迅速化が実現できた</p> <p>③ITを活用することによって新規先と時間や場所を問わず商談できたり、顧客からのデータの送受信を高度化することで、スピード感ある対応が可能になった</p>
④人材・ノウハウの高度活用・高度な経営管理への活用	<p>①OJTが中心だが、サポート的な役割として熟練技能者の技術をデータベース化し形式値を利用している</p> <p>②厚生労働省の高度熟練技能者、八尾ものづくり達人、なにわの名工など国や府や市から認定を頂けるような高度な技術をもつベテランのデータベース化を7年前から実践しているの、相当量のデータベースがあり、ITを使って活用できるようにしている</p>
⑤情報セキュリティ対策	<p>①ウイルス対策として市販のソフトを購入して対策を取っている</p> <p>②情報消失に対し、パスワード管理や、毎週ダットテープでのバックアップと毎日のサーバーのバックアップを行っている</p> <p>③営業・製造部門と経理部門とのネットワークを取って分離し、経理部門のウイルス感染など万が一に備えている</p>